



自然文化誌研究会理事 西村俊

残暑が長い夏がやっと終わり秋の訪れを感じられるようになりました。山々は色づき、散策に出かけるには良い季節となりました。小菅村ではキノコ狩りも楽しんでいるようです。

植物と人々の博物館は、社会的共通文化財である植物標本・民具・文献や書籍の資料収蔵・整理を続けています。現在所蔵する資料をより広くご利用していただけるように、森とむらの図書室 (<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>) の蔵書リストと閲覧書架も整理・充実を図っています。原沢文庫、塚原文庫、西川文庫、木俣文庫、山田文庫、石川文庫、若林文庫、それぞれ特徴ある寄贈書をぜひご活用ください。また、社会的な共通文化財としてこれらの資料をどのように公共の場へ移管し、広く公開・利用頂けるのか、一緒にご議論いただければ嬉しいです。引き続き、資料整理のお手伝い頂ける方を募集します。資料など閲覧したい方、手伝い頂ける方、ご連絡いただければ日程調整してご案内いたします。担当 木俣 (kibi20kijin@yahoo.co.jp)



【原沢文庫の整理状況】

※以下のHP上では電子書籍や主な海外フィールド調査ノートデータベース化して公開しています。

公式HP：植物と人々の博物館

<http://www.ppmusee.org/>

民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録

<https://www.milletimplic.net/>

今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しましたが、担当者の疲労も蓄積しており、佐野川での雑穀栽培講習会は今年で最後になる予定です。これまでご参加・ご協力ありがとうございました。



【宮本茶園の雑穀見本園（9月）】

9月23日に伝統知伝承顧問として本会を長く支えて頂いてきた中川智さん（上野原市西原）が亡くなりました。長年、本会の活動を支えて頂きました。ご冥福をお祈りします。



【中川智さん・仁さん兄弟と雑穀（2023年）】

沖縄県竹富島で在来の五穀の復活を目指した活動が行われています（沖縄雑穀生産者組合）。木俣美樹男研究員が1975年頃に収集した在来種の粟が現地に帰り、半世紀ぶりに穂をつけたようです（仲介：玉木陸斗さん）。新しい継承の歩みがまた一つ再開されたようです。

民族植物学ノート第18号は2025年3月末に発行を予定しています。年内にご寄稿ください。